

2021年度 幼稚園 経営計画

お茶の水女子大学附属幼稚園

I 大学の中期目標（附属学校について）平成28年度～令和3年度

1. 附属学校と連携した統合的な教育組織の強化

同一のキャンパスに設置されている大学と附属学校等が密接に連携し、伝統ある教育・研究資産を活用して、生涯にわたる学びを見通した統合的な教育理念と教育・研究組織を構築する。さらに、人の発達過程における課題解決に向けた研究や、心身ともに健やかな一生を送るための研究の成果を、本学における乳幼児期からシニア世代までを通じた教育に活かし、人の生涯を通じた教育モデルとして国の内外に向けて発信する。

（前文）大学の基本的な目標5）

2. 教員養成・乳幼児教育等の本学の伝統を活かし、生涯を見通した教育システムを構築するとともに、新たな乳幼児教育の提案を行う。（I-3-（4）社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標【M16】）

3. 同一キャンパス内に大学といずれみナーサリーを加えた附属学校等、及び認定こども園があることを活かし、全学的に緊密なマネジメント「オールお茶の水」体制を構築する。（I-4-（2）附属学校に関する目標1【M19】）

4. 大学・大学院と附属学校等との連携を通じた一貫した教育理念に基づき、自主自律的で確かな基礎学力と広い教養を持ってグローバルに活躍できる生徒・学生を育成するとともに、附属学校等は学校現場が抱える教育課題について、実験的、先導的に取り組む。（I-4-（2）附属学校に関する目標2【M20】）

5. 大学と附属学校等の連携の下で、先進的な教育研究の場として、附属学校等を学内外の研究者や研究機関に開放する。（I-4-（2）附属学校に関する目標3【M21】）

6. 教職員の学び直しや、生涯にわたって教員としての資質能力を育てる機会を保障する。（I-4-（2）附属学校に関する目標4【M22】）

7. 幼児、児童、生徒及び学生を含めた本学構成員全体の安全意識の向上を図るとともに、特に、災害時における危機管理体制の構築及び防災対策を充実させる。（V-2安全管理に関する目標【M35】）

II 附属幼稚園の教育目標

子どもを「自ら育つもの」と捉え、次のような子どもへの願いをもち、幼児の心身の発達を助長する。

- ・自分のことを大切にする
- ・周りの人を大切にする
- ・環境を大切にする

III 附属幼稚園の経営方針**1 使命【ミッション】**

- (1) 大学の附属幼稚園として、幼児教育の理論と実際に関する研究を行う。
- (2) 大学の附属幼稚園として、学生の実習と多様な研究協力の場を提供する。
- (3) 大学の附属幼稚園として、研究や保育の実際を公開し幼児教育の進歩向上に貢献する

2 展望 [ビジョン]

- (1) 子どもへの願い（教育目標）を基盤に、教育課程、環境の見直しを進め、一人一人に応じた教育活動を推進し、それぞれの伸びる力を十分引き出し、個性豊かな育ちにつなげる。
- (2) 幼児教育に関する諸課題について、大学、人間発達教育研究所及び、いずみナーサリー、文京区立お茶の水女子大学こども園と3園が連携し、その改善に資する研究を実証的かつ先進的に行う。
- (3) 大学の教育実習やインターンシップ、授業の保育観察を受け入れるとともに、教科教育法等の授業を担当し、これからの幼児教育を担う意欲的で実践力のある教員及び実践研究者の養成に協力する。
- (4) 国内外の幼児教育行政関係者・教員・研究者の視察、参観や研修を積極的に受け入れると共に、公開保育研究協議会の開催を通して、本園の幼児教育の理念、実践と研究の成果を積極的に社会に発信し、教育関係者との交流を促進していく。

3 目標 [ゴール]

- (1) 教育課程：幼稚園教育要領を踏まえつつ、文科省研究開発指定3年次、幼稚園入園前後、及び小学校入学前後の両方の接続を意識をおいた新教育課程を作成する。
- (2) 園 運 営：教職員、大学、及び他機関との連携を密にし、最新の社会情勢を的確に判断しながら、園児、保護者の安全・安心な幼稚園生活を保障すると同時に、開かれた幼稚園づくりを実験的、先導的に推進する。
- (3) 大学・附属との連携：教育実習や大学の授業担当、インターンシップの受け入れ、人間発達教育科学研究所、理系女性教育開発共同機構等との研究協力を核に、大学との一層の連携を図る。文京区立お茶の水女子大学こども園・いずみナーサリーと3つの乳幼児教育現場が協力し、幼稚園入園前後及び幼小連携を視野に入れた研究開発学校の取り組みを進める。小学校・中学校・高等学校とは連携研究に引き続き取り組む。
- (4) 社会貢献：公開保育研究会の開催や、オンラインを活用した海外幼児教育関係者の研修の積極的受け入れ、日本の「主体的に考え行動する子どもを育てる」保育の発信を通じて、附属園としての社会貢献を果たす。本園が所有する歴史的資料の整理と保管体制の充実を進め、研究者や諸機関への資料提供を行っていく。

4 経営計画 [マネジメント・プラン]

(1) 幼稚園経営重点課題

① 教育課程

○文京区立お茶の水女子大学こども園・いずみナーサリーと連携して、0歳児から5歳児までの発達の連続性に根ざした教育課程を作成し、実施する中で分析及び課題把握等に努め、新たな教育課程の編成を進めていく。

② 幼稚園運営

○園舎内外の安全点検を徹底し、新型コロナウイルス感染症予防に努め、安全・安心な幼稚園作りを推進する。教育環境の改善につながるように、経年劣化が見られる備品等の補修・修繕を計画的に実施する。

- 子どもの実態や保護者の学校評価に照らし、各行事の在り方を検討精選し、実施後の評価を行う
- 掲示版への記載、クラス懇談会、個人面談、研究だより等を通して、遊びの中での幼児の育ちや本園の研究の内容について具体的にわかりやすく保護者に伝え理解を図る。本園のポートフォリオ化を進めると共に、保護者の思いや考えを知る機会を多様に設け、園と保護者双方向で子どもの育ちを支えていく。
- 安否情報システム ANPIC やお茶大 Moodle 附属学校園を活用する、教員やスクールカウンセラーとの相談や懇談の機会を多様に設ける等、安心できる園生活を保障し、保護者との協力体制を強化していく。
- PTA つぼみ会、教育後援会、同窓会とも連携して教育環境を整える。PTA つぼみ会については、保護者の委員会活動の内容を精選することで、時代に見合った活動を提案、促進する。
- 学校評議員会・学校関係者評価委員会を年2回実施する。そこで得た評価と自己評価を踏まえて保育や研究を進め、改善につなげる。
- 事務・会計・施設等の管理体制を明確にし、担当者を中心に効率的な運営を行い、教員の働き方改革につなげる。
- 安定した教育活動が行えるよう、園務分掌のスリム化や変形労働時間制度による勤務時間の遵守に努め、働き方改革を進める。

③ 大学との連携

- 大学教員、人間発達教育科学研究所の協力を得て、学びの多い園内研究会や公開保育を実施する。
- 実習生やインターンシップ生の受け入れ、大学の講義担当及び調査協力を担う。

④ 社会貢献

- 公開保育を実施し、参加者とともに学び合う協議会を継続して実施し、評価を受ける。地域現職教員対象の講演会等の機会を設け、地域とのつながりを目指す（状況によっては、オンラインを活用する）。
- 幼児教育の無償化に伴い、幼児教育についての理解と信頼を得る。保育内容の充実を図る中で、教職員の資質向上を目指し、社会に開かれ信頼される園運営を目指す。
- 英語版を含め研究成果をまとめた紀要を関係諸機関に配布したり、附属学校園教材・論文データベースを活用したりして、教材論文、研究等を広く発信し、評価を受ける。
- 所有する幼児教育に関する歴史的な資料の整理を進めると同時に、資料公開及び研究者への協力をしていく。
- 先進的な取り組みをしている幼稚園、こども園などの幼児教育施設とともに研究を進め、互恵的に学ぶ機会とする。また、指導講師として本園の実践研究を広く発信し、保育実践研究に協力していく。

(2) 各学年の目標

- 3歳児学年 教師や友達に親しみ、安心して自分の思いを表す
- 4歳児学年 ものや人に興味をもち、関わって遊ぶ楽しさを味わう
- 5歳児学年 身の回りのもの、人、ことに興味をもって関わり、友達とともに遊びや生活をつくっていく

(3) 幼稚園各園務分掌の重点目標

① 教務

- 担当者が替わっても引き継がれる体制を作り、改善を加えながら、園務分掌を遂行する。
- 各分担の仕事内容の整理と明確化を進め、組織的な園運営の体制を実現し、働き方改革につなげる。
- 本園の歴史や伝統を継承しつつ、時代の流れや社会情勢に寄り添った新しい着想を取り入れる。教職員が連携して保育を進められるよう、情報を共有する機会を計画的に設定する。
- 園行事の意義を共通理解し、充実を図ると共に、実施後の評価を行い翌年以降の行事計画に活かす。
- いずみナーサリー、お茶の水女子大学こども園との連携を含め、学内外の関係機関との連絡を密にし、地域との連携を図りながら園運営を進める。

② 危機管理

- 大学専門委員会の防災体制整備と併せて改善された危機管理マニュアルを活用し、さらに危機管理全般を改善していく。予測困難な社会の変化にたくましく立ち向かう社会の担い手を育てるために、園児・保護者・教職員対象に様々な想定下の訓練を積み重ねる。
- 大学と連携し、安全管理体制の見直しを行い、園としての備蓄品の整備・更新を進める。安否情報システム ANPIC の有効かつ安定した運用が進められるよう、マニュアルの共有を進めていく。
- 新型コロナウイルス感染症に関する情報を各方面と連携して収集し、安全・安心な園生活を送るために、感染症対策の徹底、および、集団感染リスクへの対応を実施する。
- 気候変動や緊急事態に対応した教育課程の柔軟な運営、行事の変更実施等を工夫し、園児の体験を保障する。
- 教職員の情報セキュリティに対する意識を高め、情報管理体制の見直し、共有を行う。蓄積したデータを適切に管理することで働き方改革に生かす。

③ 研究

- 子どもの主体性を尊重し、関わり合い、育ち合っていく保育のあり様を探究していく。
- 文部科学省から指定を受けている、研究開発課題「幼児の発達と学びの連続性を踏まえた幼稚園の教育課程（3歳児～5歳児）の編成及び保育の実際とその評価の在り方についての研究開発」3年次に取り組む
- 附属学校の研究取り組みを発信する教材・論文データベースを活かし、研究実績への評価を受けて、双方向的な研究に生かしていく。
- いずみナーサリー、お茶の水女子大学こども園と連携し、乳児期から幼児期の発達を見通したカリキュラムの開発を進めていく。